

《令和4年度の発掘作業終了》

11月15日(火)に国道153号拡幅工事に伴う発掘作業が、また12月23日(金)にリニア中央新幹線建設工事に伴う発掘作業が無事終了しました。おかげさまで、飯田下伊那地区の歴史を考える上で貴重な資料を得ることができました。調査期間中のご協力に感謝します。来年度もそれぞれの開発事業に伴った発掘作業を別地点で行う予定です。引き続き、皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

《五郎田遺跡リニア中央新幹線地点》

B区では、遺構とは別に、南東隅に土曾川方向に大きく傾斜する旧地形が確認され、北東隅では流路跡が検出されました。この北東隅の流路跡は、古代には埋没していたことが確認でき、この流路跡を挟んで、東側と西側とでは土層の堆積環境が大きく異なっています。現在、平坦に見えている地形も、埋没した流路跡や様々な凹凸等を造成・平坦化して耕作適地としていることがわかります。



調査地点位置図

《古代の大形掘立柱建物跡群》

柱の痕跡を明確に伴う径1mを超える掘方^{ほりかた}をもつ柱穴が数多く検出されましたが、掘立柱建物跡と把握できたものはわずか3棟です。

ST101は、3間×4間以上の大形の掘立柱建物跡で、柱穴掘方^{ほりかた}はいずれも2個ずつあり、建替えが行われ、長期にわたる利用が想定されます。同様の掘立柱建物跡は昨年度の調査区でも1棟確認されています。昨年度の調査分を合わせると、3間×4間(桁行7m)以上の規模の掘立柱建物跡が群をなして存在していたことが想定されます。

恒川遺跡群^{ごんが}と同じ土曾川左岸に立地する本遺跡の位置付けを探ることは、史跡恒川官衙遺跡を中心とした領域の様相を研究する上で重要であり、今後の調査の進展が期待されます。



五郎田遺跡 東からの空中写真(斜め)



大形の掘立柱建物跡 (ST101)

《五郎田遺跡国道153号拡幅地点》

土曾川に近い4区では、竪穴建物跡3軒と土坑89基、溝跡1条がみつかりました。竪穴建物跡は、平安時代の遺構と考えられますが、カマドの火床と硬化した床面の一部が検出できたのみでした。他にも多くの土坑の切り合いが認められました。なかでも、直径1mほどの円形の穴は、掘立柱建物跡の一部であると考えられます。遺物の出土が僅かで、遺構の時期は分かりません。また円形～楕円形をした土坑SK34の底から、古墳時代の高坏や小形丸底土器、甕などがまとめて出土しました。穴の中に土器を廃棄した遺構だと思われれます。

遺物は、弥生時代中期から平安時代の土器片がみつっています。遺構の時期がはっきりしているものは現段階では少ないですが、その間は人々の生活の場であったと予想できます。また、国道の西側には正泉寺遺跡が隣接しているので、今後、五郎田遺跡と正泉寺遺跡との関係を明らかにできればと考えています。



4区の様子



土坑SK34の底からみつかった土器の様子



4区調査風景



土坑SK34からみつかった小形丸底土器

長野県埋蔵文化財センター 飯田支所

〒395-0151 飯田市北方297-5

電話：0265-49-0736

メール：maibun@naganobunka.or.jp

H P：<https://naganomaibun.or.jp>

国道153号拡幅 担当：長谷川桂子

リニア中央新幹線 担当：上田典男

両角 太一

携帯：080-9560-1354

携帯：080-7834-9422



支援業務 (株)シン技術コンサル

中西孝和/菊池康一郎/浅間 陽